

平成 30 年度

第九中学校区小中連携教育実践報告書
(2年次まとめ)

研究主題「9年間を見通した、主体的・対話的で深い
学びを実現する指導の工夫」



平成 31 年 1 月

足立区立第九中学校
足立区立梅島小学校
足立区立梅島第二小学校
足立区立亀田小学校

小中一貫教育の視点に立った連携教育の充実

人工知能が進化した未来に人間が活躍できる職業等に関する不安や、情報化やグローバル化が急激な社会的な変化の中で、「未来の創り手となるために必要な資質・能力」を確実に育成する学校教育が求められている。学校教育を通じて、よりよい社会をつくるという目標を学校と社会が共有するなど、社会に開かれた教育課程などが指摘されている。また、幼稚園、小学校及び中学校の体系化された教育を一層充実することが望まれている。

そのような中、平成 30 年度から、新幼稚園教育要領の全面実施、小中学校における新学習指導要領の移行措置期間に入っている。新幼稚園教育要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化が図られ、健康な心と体、自立心や共同性、言葉による伝えあい等の 10 項目に整理されている。小・中学校の新学習指導要領では、全ての教科で育成を目指す力として「知識や技術」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」の 3 つの柱を示し、主体的・対話的で深い学びによって適切に育成していくこととしている。

第九中学校区の小中連携教育の推進としては、平成 28 年度まで、足立スタンダードを基礎とした義務教育 9 年間の学習指導の充実に取り組んできた。平成 29 年度からは、新学習指導要領への移行や 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据え、主体的・対話的で深い学びの有効な「学び方」、日本や異国の伝統・文化等を理解し、英語による外国人とのよりよい交流を図る「国際理解教育」と、全ての活動の基盤である健康や体力の保持増進を図る「体力向上」の 3 つの視点から、義務教育の充実と教員の授業力向上を目指す研究を進めることとした。また、学習指導と生活指導は人間形成の両輪といわれていることを踏まえ、小中学校で共通認識できるように生活指導の体系化についても研究を進めることとした。

この度、2 年間の成果の一部を報告書としてまとめました。この冊子は、私たち 4 校の悩みながら実践してきた証であるとともに、共有する指導の手引きであり、今後の第九中学校区の教育の充実・発展のための資料とするものです。研究につきましては途中段階ではありますが、小中一貫教育を推進する学校の皆様に、これまでの研究成果を少しでもご活用していただければ幸いです。

結びになりますが、この 2 年間、ご指導くださいました足立区教育委員会をはじめ講師の皆様、関係の皆様にご心より御礼申し上げます。

平成 31 年 1 月

足立区立第九中学校長	長塚 琢磨
足立区立梅島小学校長	江原 敦史
足立区立梅島第二小学校長	大塚 信明
足立区立亀田小学校長	星崎 誠

平成 29 年度からの 第九中学校区の 小中一貫教育の方向性について (概要)

経緯と動向

平成 28 年度まで

研究主題
「確かな学力の定着を図るための指導の在り方-足立スタンダードを基礎とした義務教育 9 年間の学習指導の充実-」

実施方法
・ 九中と梅島小の小中連携と、亀田小と梅島第二小の小小連携による研究
・ 教科等分科会をベースに研究を進める

研究成果
体系的な指導の理解と授業力の向上

今、求められている教育

中央教育審議会各申より
・ 学習指導要領等の改善の方向性
育成を目指す資質と能力など、「学びの場」として 6 点に示された枠組みの見直し
カリキュラムマネジメント
アクティブ・ラーニングの視点

足立区、第九中学校区
・ 足立区基本構想 (平成 28 年 10 月策定)
「協働力でつくる 活力にあふれ 進化した続ける ひと・まち 足立」

・ 第九中学校区
人情味や活力にあふれた地域
古くから住む人と新しく来た人が混在し
教育への期待が大きい地域

小中一貫教育の方向性

・ 国や都の施策
一貫教育の推進、指導体制の整備
・ 区の施策
平成 30 年度から全地域で小中連携

基本的な考え方 (研究内容と組織)

○ 研究主題

9 年間を見通した、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫
ー 東京オリンピック・パラリンピックを見据えた活力ある子どもの育成ー

○ ねらい

- 中央教育審議会答申にある「育成を目指す資質や能力」の効果的な指導法に関する実践的な研究を行い、授業力を図る。
- 小・中学校の協働により、国際感覚を養うとともに、自ら課題を発見し、他者と関わり、主体的に解決する子どもを育成する。
- 学習習慣や生活習慣の確立など、活力ある子どもの育成を目指す。

○ 組織・運営

- 校長、副校長、教務主任及び研究主任で構成する推進委員会を設置し、円滑な運営を図る。
- 全体会を含め年間 6 回の 4 校での研究会を設け、それぞれの発達段階におけるよりよい授業づくりや、教員の授業力向上を図る。
- 各校の状況を踏まえ、研究日以外でも連携を図り研究を推進する。
- 年間 2 回の検証授業を実施し、協議と講師の指導等を設定する。
- 研究主題に迫るため、「学び方」「国際理解」「体力向上」の 3 つの部会を設置し、全体会で研究成果を発表する。

学び方部会

1 構成

国語科、算数・数学科、理科

2 内容

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、各発達段階や、授業の導入・展開・まとめで、どのように入れると有効なのかの実践的研究を行う。
※ 例:マトリクス等でまとめる。

3 その他

- 検証授業を 2 回行う。
- いわゆるアクティブ・ラーニングの視点で研究する。

国際理解教育部会

1 構成

外国語・英語科、社会科、生活科、音楽科、図工・美術科

2 内容

東京オリンピック・パラリンピックを見据え、日本や異国の伝統・文化等を理解する。また、様々な交流や、英語による日本や地域の紹介を行う。各学年段階等において身に付ける力を検討し、その実践的研究を行う。

3 その他

- 検証授業を 2 回行う。
- 小学校の英語教育を考える。

体力向上部会

1 構成

体育・保健体育科、家庭・技術・家庭科、養護、栄養

2 内容

体力を高めるための運動、食育、生活習慣や運動習慣の確立の視点から、体力が高まり、活力がある生活を送るための学習内容や、学習過程及び教材開発の実践的研究を行う。

3 その他

- 検証授業を 2 回行う。
- 子どもの体力や生活習慣等の現状を把握し、課題を明確にする。

研究のまとめ

**1 年次: 各分科会で授業を行い、研究成果を紙面にまとめる (様式を示す)。
2 年次: 2 年次のまとめとともに、2 年間の研究を小冊子にまとめる。**

1 研究を進めるに当たって

第九中学校区における小中連携教育において、小中一貫教育の視点に立った学習指導の充実を図るため、新学習指導要領の移行期であることを踏まえ、主体的・対話的で深い学びを中心に、各教科でのよりよい授業づくりに取り組むこととした。

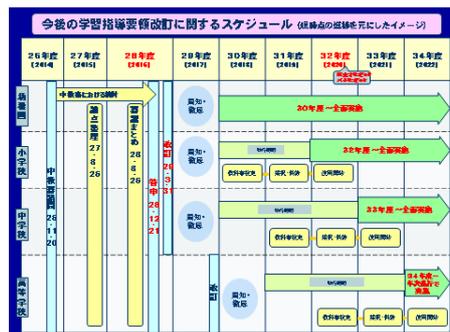
特に、次の6つの事項を確認し、発達の段階を踏まえて取り組むこととした。

1 今後のスケジュール

本年度より幼稚園教育要領が全面実施となり、保幼小中の体系化された教育がスタートしたという意識を高める必要がある。

新幼稚園教育要領では、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」や「言葉による伝えあい」など育ててほしい姿を明確に示している。

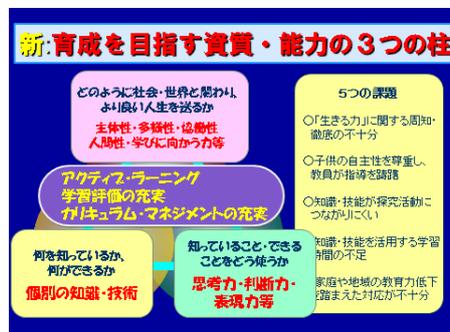
このことを踏まえ、保育園や幼稚園との連携をさらに深めるとともに、小学校や中学校における新学習指導要領の全面実施に向けて研究や研修を進めていく必要がある。



2 育成を目指す資質・能力の3つの柱

新学習指導要領では、引き続き知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」の育成を考えている。育成を目指す資質・能力として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」を3つの柱として示している。

また、新幼稚園教育要領では、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」や「言葉による伝えあい」など育ててほしい姿を明確に示している。



3 全教科における横断的な学び

育成を目指す資質・能力として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」の3つの柱は、全教科で培う方向性を示している。

また、新学習指導要領では、特別な教科化などの道徳教育の充実、体験活動の重視、体育・健康教育に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体の育成を行うこととしている。



4 主体的・対話的で深い学びの構造イメージ

新学習指導要領では、求められている資質・能力を育成する学校教育における質の高い学びを実現するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の必要性が示されている。

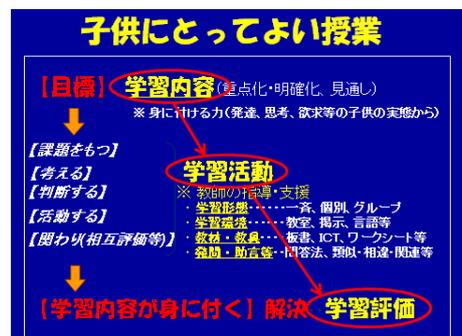
このことについて、次世代型教育推進センターの研究をもとに、右図のような学習過程をイメージとして、教材開発や指導方法等の工夫を研究することとした。



5 指導と評価を意識した授業づくり

児童・生徒にとってよい授業を考える上では、学びのプロセスとしての「主体的・対話的で深い学び」があるとともに、児童・生徒が自己の力の高まりを感じる必要がある。

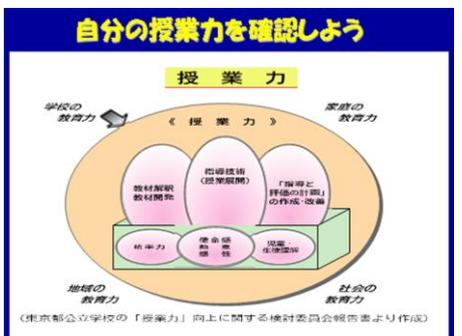
そのための「指導と評価の一体化」や「具体的な指導の要素」について、過去の研究をもとに右図のように考え、実践的な研究を進めることとした。



6 授業力の向上

東京都教育委員会は、検討委員会を設置し、平成16年に「授業力」を定義した。授業で発揮される力として6つの要素を示し、それらを向上させていく方向性を示している。

特に、授業づくりのベースとなる「使命感」「統率力」「児童・生徒理解」が重要であり、その基礎があつてこそ、指導技術等の工夫・改善の効果が一層高まると考えた。生徒の学びの質を高めるためには、教員の人間性や学びに向かう力を高めるとともに、指導方法等を高めていく必要がある。



7 規範意識を高める体系化した生活指導（義務教育9年間の見通しをもった指導）

小中一貫教育の視点に立った学習指導の充実を図るためには、学習に対する意欲とともに授業規律の徹底をはじめとした規範意識の向上が必要である。このことは、全国学力・学習状況調査結果や文部科学省委託研究として国立大学法人お茶の水女子大学がまとめた「平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」の結果からも明らかである。

第九中学校では、学力向上について「授業改善」「学校の取組」「心と体の育成」「生活習慣の確立」の4つの視点で捉え取り組んでいる。

これらのことを踏まえ、本研究では児童・生徒のよりよい学びを充実させるために、体系的な規範意識向上の指導を7ページのようにまとめ、全校で共通認識のもと実践することとした。

足立区立第九中学校の学力向上の総合方策について



教育基本法

【教育の目的】(第1条)
人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

【教育の目標】(第6条)
教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の豊
富に資して、体系的な教育が継続的に行われなければならない
上、この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む
上で必要な態度を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り
組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。

【教員】(第9条) 18新設
自己の豊富な徳性を高く自覚し、絶えず研鑽と修業に励
み、その職責の遂行に努めなければならない。

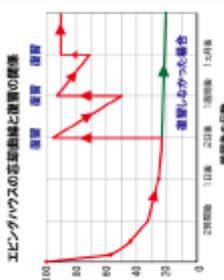
学校教育法

【家庭教育】(第10条) 18新設
保護者は、子の教育について、生涯に必要な資質を身に
付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれ
た発達を図るよう努めるものとする。

【幼児教育】(第11条) 18新設
幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う
重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体
は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他
他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

【学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力】(第13条) 19新設
学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育における支
れそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力
に努めるものとする。

【学校教育の目的】(第30条の2 参考)
生涯にわたる学習する基礎が培われるように、① 基礎的な型
識及び技能の習得、② 思考力、判断力、表現力等を幅広くみ、
③ 主体的に学習に取り組む態度を養う。



第九中学区における系統性・連続性を踏まえた規範意識向上の指導について(案)

平成30年12月12日

足立区立第九中・梅島小・梅二小・亀田小学校 校長会・生活指導主任会

学年	基本的な生活習慣	時間を守る	忘れもの等	挨拶、言葉遣い	社会の一員としての自覚
小学校 第1・2学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 決まった時刻に起きる(早起)。 ○ 決まった時刻に寝る(早寝)。 ○ 毎日必ず朝食をとる(朝ご飯)。 ○ 朝の歯磨き、洗面や手洗い等の衛生管理をしっかり行う。 ○ 活動しやすい子供らしい洋服をしっかりと着る。 ○ 帽子をかぶって登校する。 ○ 靴をしっかりと履く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チャイム着席を守る。 ○ 次の学習の準備をしておくから休憩する。 ○ 登下校の時刻を守る <p>※ 朝は余裕をもって登校する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校からのプリント等は、帰ったら必ず保護者へ渡す。 ○ 連絡帳の書き方を覚え、自分で書く。必ず保護者に見せる。 ○ 忘れ物がないように前日のうちに準備する(袋等を併せておく、名前を付ける等を含む)。 ○ 朝、持ち物を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 元服にあいさつする。 ○ 友達の名前は「さん・くん」付けで呼ぶ。 ○ 人に優しい言葉を使う。 ○ しっかりと返事をする。 ※ おそそを向けて、話す人を見て、静かに聞く。また、話す人の話をさえぎらず、最後まで聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々なところで、人のためになっている人がいることに気付く。 ○ みんなのためになる手伝い等をやる。 ○ ものを大切に。公共のマナーを守る。 ※ 感謝の気持ちをもつ(「ありがとう」を言う)。 ○ 様々なところや場面で、人や地域のために活動している人がいることに気付く。 ○ 自分から進んで、みんなのためになる手伝い等をする。 ○ 公共のマナーを守る。 ※ 感謝の気持ちをもつ(「ありがとう」を言う)。
小学校 第3・4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 態度ある行動ができる。 ・ きちんとした身なりについて自分で考えられる。 ※ 脱中心性による思考(少人数) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 約束やきまりを守って行動できる。 ・ 態度ある行動ができる。 ※ 脱中心性による思考(少人数) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校からのプリント等は、帰ったら必ず保護者へ渡す。 ○ 先生から言われたことは必ず保護者に伝える。 ○ 連絡帳や学級通信等を活用して、計画的に学習道具を準備する。 ○ 忘れ物がないように前日のうちに準備する(袋等を併せておく、名前を付ける等を含む)。 ○ 朝、持ち物を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分から進んで挨拶をする。 ○ 友達の名前は「さん・くん」付けで呼ぶ。 ○ 人に優しい言葉を使う。 ○ しっかりと返事をする。 ※ おそそを向けて、話す人を見て、静かに聞く。また、必要に応じてうなずきながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な所や場面で、人や社会のために必要としている人が必要であることを理解する。 ○ 身のまわりの状況を考え、自ら進んで学校全体の役に立つ行動をする。 ○ ボランティア活動の大切さを知り、奉仕について考える。 ○ 公共のマナーを守る。 ※ 感謝の気持ちをもち、態度を示す。
小学校 第5・6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で計画的に行動できる。 ・ 安全でより有効な服装等を考えられる。 ※ 脱中心性による思考(学級レベル) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チャイム着席を守る。 ○ 学習の開始時刻や休みの終了時刻などには「5分前(予給等)行動」を意識して生活する。 ○ 次の学習の準備をしてから休憩する。 ※ 朝は余裕をもって登校する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校からのプリント等は、帰ったら必ず保護者へ渡す。 ○ 先生から言われたことは必ず保護者に伝える。 ○ 連絡帳や学級通信等を活用して、計画的に学習道具を準備する。 ○ 忘れ物がないように前日のうちに準備する(袋等を併せておく、名前を付ける等を含む)。 ○ 朝、持ち物を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分から進んで挨拶をする。 ○ 友達の名前は「さん・くん」付けで呼ぶ。 ○ 人に優しい言葉を使う。 ○ しっかりと返事をする。 ※ おそそを向けて、話す人を見て、静かに聞く。また、必要に応じてうなずきながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な所や場面で、人や社会のために必要としている人が必要であることを理解する。 ○ 身のまわりの状況を考え、自ら進んで学校全体の役に立つ行動をする。 ○ ボランティア活動の大切さを知り、奉仕について考える。 ○ 公共のマナーを守る。 ※ 感謝の気持ちをもち、態度を示す。
中学校 第1～3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毛染めやピアスなどは体を傷つけるので、児童・生徒は行わない指導をする。 ※ S N S 家庭ルールを作り守る(スマホを控えめにする等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チャイム着席を守る。 ○ 計画的な行動を心がけ、様々な場面で、自分から進んで「5分前行動」を意識して生活する。 ○ チャイムが鳴り終わるまでに席に着き、教科書を開き自主学習を進める。 ○ 一日の生活を考え、時間を意識して行動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校からのプリント等は、帰ったら必ず保護者へ渡す。 ○ 先生から言われたことは必ず保護者に伝える。 ○ 自分でメモ帳を準備し、しっかりと活用する。 ○ 忘れ物がないように前日のうちに準備する(袋等を併せておく、名前を付ける等を含む)。 ○ 朝、持ち物を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 元服にあいさつする。 ○ 友達の名前は「さん・くん」付けで呼ぶ。 ○ 人に優しい言葉を使う。 ○ しっかりと返事をする。 ※ おそそを向けて、話す人を見て、静かに聞く。また、必要に応じてうなずきながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な所や場面で、人や社会のために必要としている人が必要であることを理解する。 ○ 身のまわりの状況を考え、自ら進んで学校全体の役に立つ行動をする。 ○ ボランティア活動の大切さを知り、奉仕について考える。 ○ 公共のマナーを守る。 ※ 感謝の気持ちをもち、態度を示す。

8 平成30年度小中連携に関する運営計画

(1) 研究等について

	日 時	会 場	内 容
1	4月11日(水) 午後4時から	第九中学校	推進委員会 ・小中一貫教育の視点に立った指導の方向性の確認 ・連携に関する計画について ・その他確認事項
2	4月25日(水) 午後3時から	第九中学校 体育館 その他	全体会 ：概要やスケジュールの説明、部会の説明 部 会 ：組織、研究の方向性、授業者、発表者等 ・学び方部会：(梅二小) 3-1 教室、研究の進め方など ・国際教育部会：(梅島小) 3-2 教室、研究の進め方など ・体力向上部会：(亀田小) 3-3 教室、研究の進め方など
3	6月20日(水) 午後3時から	第九中学校	研究協議 等 ・学び方部会：会場(視聴覚室)、内容(小指導案検討) ・国際教育部会：会場(会議室)、内容(小指導案検討) ・体力向上部会：会場(3-1 教室)、内容(小指導案検討)
4	9月5日(水) 午後3時から	第九中学校	研究協議 等 ・学び方部会：会場(視聴覚室)、内容(中指導案検討) ・国際教育部会：会場(会議室)、内容(中指導案検討) ・体力向上部会：会場(3-1 教室)、内容(中指導案検討) 児童・生徒の規範意識向上に関する協議
5	11月7日(水) 午後2時から	【分科会別】 梅二小学校 梅島小学校 亀田小学校	研究授業及び提言 ・学び方部会：研究授業 国・算・理(1年1組、4年上コース、6年1組) ・国際教育部会：研究授業 生活・外国語(2年3組、5年2組) ・体力向上部会：研究授業 食・体(1年3組、2年3組、3年1組、5年2組)
6	11月12日(水) 午後4時から	第九中学校	児童・生徒の規範意識向上に関する協議
7	12月12日(水) 午後2時30分から	第九中学校	研究授業及び提言 ・学び方部会：研究授業 理 科(2年3組) ・国際教育部会：研究授業 英語科(1年2組) ・体力向上部会：研究授業 保体科(1年5・6組) 児童・生徒の規範意識向上に関する協議
8	【今後検討】 1月23日(水) 午後1時30分から 小中公開 ※SAS発表	第九中学校 体育館 その他	【今後検討】 全体会 ：概要やスケジュールの説明、部会の説明 部 会 ・学び方部会：発表(梅二小) 共通の冊子 ・国際教育部会：発表(梅島小) 共通の冊子 ・体力向上部会：発表(亀田小) 共通の冊子

(2) 主な行事

学校名	行 事	日 時	備 考
第九中学校	運動会 文化祭 進路説明会	6月9日(土) 午前9時から 10月26日(金) 午前9時から 11月10日(土) 午前10時から	道徳授業地区公開講座
梅島小学校	運動会 周年行事 学芸会	5月26日(土) 午前8時45分から 11月17日(土) 午前11時30分から 12月7日(金) 午前8時45分から	記念式典(130周年) 8日(土)も実施
梅島第二小学校	運動会 展覧会	5月26日(土) 午前8時45分から 11月9日(金) 午前8時45分から	10日(土)も実施
亀田小学校	運動会 展覧会	6月2日(土) 午前8時45分から 1月18日(金) 午前8時45分から	19日(土)も実施

II 各部会の研究実践報告

1 学び方部会の研究について

(1) 研究のねらい

「9年間を見通した、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫」という全体テーマのもと、学び方部会では、対話的な学びの追求を実現する授業において有効な学習過程や教材の活用などを研究し、効果的な学び方について提言する。

ア 小学校（1年次）

算数科の授業研究を通して、主体的・対話的で深い学びを実現するための有効な学習過程や教材等について研究を深める。

イ 小学校（2年次）

国語科、算数科及び理科の研究授業を通して、対話的な学びに重点を置いてその在り方を追求する。

ウ 中学校

1年次には数学科、2年次には理科の研究授業を通して、主体的、対話的で深い学びについて、単元を基本として有効な学習過程や教材、指導・助言について研究する。

(2) 研究内容

基礎的な知識や技能を身に付け、見方や考え方を働かせて、仲間と共に課題を解決していく資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学びのプロセス」に視点を置き、各単元の学習課程や、導入・展開・まとめ等の1時間の授業の流れについて研究を行った。

ア 小学校（1年次）

算数科における「操作活動の工夫」、「対話的な活動の工夫」及び「ワークシートの工夫」について実践的研究を行う。

イ 小学校（2年次）

「①みつける」「②わかる」「③ひろがる／ふかまる」のスパイラルが自立した学び手を育てることを踏まえ、学びをつくる教師の役割や具体的な手立てについて研究した。

ウ 中学校

1年次の「数学科：第2学年の図形」では、「ICTの活用」「対話的学びを活性化する工夫」及び「既習事項を生かす学習過程の工夫」について実践的な研究を行った。

2年次の「理科：第2学年の気象」では、身近な課題と結び付け、ICT機器を活用して多角的に気象をとらえる指導を行った。

(3) 基礎研究（論理的な研究）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられるようにすることが大切である。

ア 主体的な学び

主体的な学びを、学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しをもってねばり強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学びととらえた。

イ 対話的な学び

児童・生徒同士の協働、教職員や地域の人たちとの対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通して、自己の考えを広げ、深めていく学びととらえた。

ウ 深い学び

習得・活用・探究という学習過程の中で、見方や考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を発見し解決策を考えたり、思いや考えを基にして創造したりする学びととらえた。

エ 小中連携における授業づくりの視点

児童・生徒の発達の段階を踏まえ、有効な授業づくりを行う視点を「目指す児童・生徒像の共有化」、「児童・生徒の状況の把握と共有化」、「指導内容の系統性」及び「指導方法の連続性」の4つととらえた。

(4) 授業研究（研究授業等の実践）

ア 1年次

(ア) 小学校：操作的活動や対話的な活動の授業づくり

- ・ 操作的活動の工夫により、根拠を明確にしながらい図形の弁別についての考えをもてるよう工夫する。
- ・ 対話的な活動の工夫により、自分の考えを深めることができるよう工夫する。



(イ) 中学校：数学的な見方や考え方を深める授業づくり

- ・ 身近で分かりやすく視覚に訴えるようにICTを活用して、生徒が主体的に数学に関わるよう工夫する。
- ・ 仲間と対話しながら思考力等を深めるように学習過程や教材等を工夫する。



イ 2年次

(ア) 小学校における研究授業

- ・ 小学校

【国語科】第1学年「おもいだしてかこう」

経験した出来事を思い出し、時間的な順序に沿ってつながりのある文章を書くために

- ・ 児童・生徒がもつ文章を書くことへの苦手意識やつまずきを知るため実態調査を行う。
- ・ 毎日の学校生活の中で経験したことを話す習慣をつける。
- ・ 必要な言葉を集めたものや書く順番を意識できるカードを掲示し、思考を可視化する。
- ・ 経験したことの中から付箋を使って書くことを決め、順序を考えながら言葉を選ぶ。
- ・ 付箋を貼った「書くことカード」を友達と見合い、交流する。

指導講評 統括指導主事 富本 保明 様

- ペアの友達と自分が書いた「書くことカード」を広げて見せながら意見を交換し合

う姿が見られ、児童は満足している様子だった。友達のアドバイスを生かしている児童もいた。アドバイスの内容（順序を表す言葉）は確かでないものもあったので、実際に書く段階で見直す必要がある。

- 可視化することは大切であり、今回のカードは1年生にとって見やすいが、扱いやすいかどうかは再考したい。
- 行事など、みんなで共通体験した内容を作文のテーマにしたら、アドバイスがもっとしやすかったのではないか。低学年のうち、「伝えたい」「書きたい」という意欲を大切にしたい。
- 小中9年間の書く活動で一つの指導の流れをつくり、継続的に指導できるとよい。



【算数科】第4学年「広さを調べよう」

面積の広さからどのような四角形になるのかを考え、面積の求め方を理解するために

- ・主体的な学習につながるように、面積の求め方を考える学習においてあらかじめ面積が分かっている四角形から面積の求め方を考える問題設定にする。
- ・一人一人に1cm²の正方形を16枚ずつ配り、いろいろな四角形を作る算数的活動を取り入れる。
- ・1cm²の紙を並べたりノートに四角形をかいたりして、同じ面積でも形の違う四角形ができると気付けるようにする。

指導講評 統括指導主事 富本 保明 様

- 実際に1cm²の正方形を並べることで、量感を養うことにつながった。
- 1cm²の正方形を16枚配布して考えさせたことは、四角形の面積を考えさせる上で有効であった。
- あらかじめ面積が分かっているところから四角形の面積を求めるのは探求心が芽生えて、主体的な学習につながった。
- 本時のねらいが面積の求め方なので、「一辺×一辺」や「たて×横」となる意味や、2つの式の違いなどを考えさせるとよい。

【理科】第6学年「てこのはたらき」

おもりの位置や力を加える位置を変えると、手ごたえがどう変わるのかを予想して調べ、てこを使っておもりを持ち上げるとき、小さな力で持ち上げられるのはどのようなときかまとめるために

- ・日常の事象と学習を結びつけることで、単元の学習への意欲を高める。
- ・扱う際の条件はあるが、児童が自由に試行できる場を用意する。
- ・実験を一人で行うことはできない場を設定し、必然的にグループで協力して学習に取り組めるようにする。
- ・実験の方法を予想する際や結果をまとめる際に、共通の科学用語を用いて話し合えるようにする。



- ・児童の予想と実験の結果を合っていたことや違っていたことから結びつけ、新たに分かったことをまとめる。

指導講評 統括指導主事 富本 保明 様

- 児童に実際に砂袋を持ち上げる活動をさせることで、より小さい力で物を持ち上げるためにどうすればよいかを、実感を伴いながら理解させることができた。
- 目的がはっきりしていたので、活動をしながら自然に児童の対話が生まれていた。
- てこの棒をもう少し長くすると、手応えの違いがもっとはっきりした。
- 実験に対して興味関心の少ない児童に対して、実験に参加しようと思うような教師の声かけが必要だった。
- この学習は、中学校の「仕事量」の学習につながっていく。本単元と中学校の学習内容のつながりを意識して実験を行わせるとよい。

(イ) 中学校における研究授業

【導入】

理科学習が好きな生徒が56%であること、話し合い活動が苦手な傾向にあることから、身近な災害を取り上げ、仲間と共に考えさせる工夫を行った。



【展開】

一人一人がコンピュータを活用し、ウェブサイトからの情報をもとに考える場を設定した。また、ピクチャーカードを活用し、見方や考え方を働かせやすいように工夫し、対話的な学びを推進した。



【まとめ】

ワークシートを作成し、思考を深める工夫を行うとともに、各班からの発表を受け、課題把握・予測・解決方法・実験観察・分析考察・まとめの大切さを確認した。

【指導講評】 梅島小学校長 江原 敦史 様

- ・短時間でよくまとめていた。しかし、理科的な評価が難しい学習であった。
- ・災害の種類が多いので、例えば「台風」に絞ると思考がより深まるのではないか。

(5) 研究の成果と課題

ア 研究の成果

- 教員同士で情報を共有することで、中学校ではどこでつまづいているのか、小学校で主につけておかなければいけない力は何かを明確にし、共通理解を図ることができた。
- 教科間の連携を通して、小中の指導内容の共有と指導方法を互いに理解し、9年間の学びの姿が明確化しつつある。

イ 今後の課題

- 2年間の成果が分かりづらいので、学力テストの結果、行事や学習の取り組み方、生活態度の向上など、どの点で検証したらよいのかをはっきりさせたい。
- 生徒や児童の意見を活用し、中一ギャップを埋めるような授業を展開していきたい。そのために、児童・生徒間の交流を活発化することも考えていきたい。

平成29年度 第九中学校区小中連携教育実施報告書 「学び方部会」

平成30年1月17日
足立区立梅島小学校
学び方部会部長

全体テーマ：9年間を見通した、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫 － 東京オリンピック・パラリンピックを見据えた活力ある子どもの育成 －

1 本年度の目的と内容

- (1) 目的
ア 小学校から中学校までのそれぞれの発達段階における有効な主体的・対話的で深い学びを追究する。
イ 各単元や1時間の授業における有効な学習過程や教材の開発・活用等について研究する。

(2) 研究の内容(計画等)

- ア 発達の段階における有効な主体的・対話的で深い学びを追究する。
イ 各単元や1時間の授業における有効な学習過程や教材の開発・活用等について研究する。
ウ 有効な学び方について発言する。

2 本年度の取組

- (1) 取組の内容
ア 算数的活動の工夫による主体的・対話的な学びの実現
・ 操作的活動の工夫により、根拠を明確にしながら図形の弁別についての考えをもてよう工夫する。
・ 対話的な活動の工夫により、自分の考えを深めることができるよう工夫する。
イ 数学的な見方や考え方を深める取組
・ 身近で分かりやすい視覚に訴えるようにICTを活用して、生徒が主体的に数学に関わるよう工夫する。
・ 仲間と対話しながら思考力等を深めるように学習過程や教材等を工夫する。

(2) 指導のポイント

- ア 一人一人が操作ボード上で図形を操作することにより、試行錯誤しながら図形を弁別しやすいようにした。
イ 隣同士の「ペアトーク」により、一人一人の発言の機会を確保するとともに、友達への考えと自分の考えを比較したり、自分の考えを深めたりすることができるようにした。また、共通で用いる算数的用語を明確にした。
ウ 図形を自由に動かしたり補助線を引いたりできるように、電子黒板等のICTを活用する指導の工夫
エ 導入での確認事項を生かし、豊かな発想を自由に話せる学習の場と、考えを引き出す助言を行う指導の工夫

3 成果と課題

- (1) 成果
ア 一人一人に操作ボードで操作的活動ができるようになったことで、根拠をもって図形の弁別を行うことができた。
イ 隣同士の「ペアトーク」によって、友達同士で考えを伝え合い、考えを深めることができた。また、友達の使用している算数的用語も自分の説明の中で使えるようになった。
ウ ICTの活用で、生徒は学習内容を容易に理解するとともに、算の学習活動による対話的学びが深まった。
エ 三角形の性質や補助線の工夫など、適切な助言により生徒の課題解決能力が高まった。
(2) 課題
ア 根拠を明確にした図形の弁別をさせるためには、提示する図形の種類をさらに吟味する必要がある。
イ 数学への意欲が高まらない生徒が複数おり、学習の習熟度を高めた学習過程や教材の工夫などが課題である。
ウ 教材開発やICT開発等の充実が課題である。

4 改善・充実の方向性

- (1) 教材の工夫
・ 算数的活動における児童の主体性を引き出し、友達との情報交換における根拠を明確にした説明を可能にするためには、提示する図形をより類型化し精選する。
(2) 思考力・判断力・表現力の育成
・ 児童が自分の考えを分かちやすいく文章で記述することができるようになるためには、1単位時間における書く活動を設定するタイミングや時間の確保を工夫する。
(3) 導入の工夫
・ 学習を深めるために、導入で学習内容を身近で実践的に感じさせることやゴールを明確に示すなど、主体的な態度を養う指導の工夫
(4) 思考力・判断力・表現力の育成
・ ICTの活用など、見える化から関心をもち、思考を深める工夫をするとともに、対話的な学びでさらに思考を深め発表できる力を育成する指導の工夫

5 資料(図、写真、テープ等)

1 小学校における授業づくり(小学校)

- (1) 操作的活動の工夫
一人一人に操作ボードを活用させることにより、操作的な活動を通して自力解決を支援することができた。
(2) 対話的な活動の工夫
自力解決で弁別した結果を隣同士で伝え合うことにより、自分の考えを深めることができた。



(3) ワークシートの工夫

ワークシートを工夫することにより、弁別した根拠を算数的用語を用いながら文章表現することができた。

2 中学校における検証授業

(1) ICTの活用

具体的に図形等の特性や様々な変化を示すことにより、発想を豊かにし、数学への関心を高め、数学的な見方や考え方を身に付ける。



(2) 対話的学びを活性化する工夫

豊かな発想や自由に発言できることを推進し、少人数で全員が発言できる環境を設定する。

(3) 既習事項を生かす学習過程の工夫

既習事項を板書や問答法による助言などで充実させることにより、学びの深さを確保する。

3 学び方について

育成を目指す算量・能力の3つの柱を踏まえ、学習内容や学習過程を工夫していくことが重要である。本研究では、主体的・対話的で深い学びを相互に関連を持たせることが重要であるとらえた(右図)。



また、学習活動を活性化し、主体的な態度を育成するためには、教員の適切な助言や教材開発等の指導の工夫が必要である。

2 国際理解教育部会の研究について

(1) 研究のねらい

我が国や異国の伝統・文化を理解し、世界中の人と交流する態度を養う学習の在り方を追究する。また、2020東京大会を見据え、英語によるコミュニケーションを進んで行う資質と能力を育成する指導法を研究する。

ア 小学校（1年次）

低学年・中学年・高学年の外国語活動において、外国語への関心、進んでコミュニケーションを行う力など、発達の段階を踏まえた有効な指導について研究する。

イ 小学校（2年次）

生活科と外国語活動の授業を通して、我が国の文化や異国の文化を理解する意欲や態度を養う学習過程の工夫について研究する。

ウ 中学校

2年間連続で英語科における授業を第1学年と第2学年において実施し、発達の段階による有効な教材や対話的な学びについて研究する。

(2) 研究内容

自国や異国の文化等を受け入れ、地球規模で考え、情報交換や交流を通して、自ら課題を発見解決していく活力ある生徒の育成を目指し、外国語活動や英語科の授業において、コミュニケーションを中心とした4観点を育成する視点から、学習内容、学習方法、教材開発等の実践的研究を行った。

ア 小学校（1年次）

低学年では、英語の音声の特徴に慣れるよう、チャンツや歌などをよく聴かせる。

中学年では、コミュニケーションがより円滑に行えるよう、相づちを打ったり、ジェスチャーをつけたりできるようにする。

高学年では、相手意識をもち、聞かれたことに正対して受け答えができるようにする。

イ 小学校（2年次）

【生活科の取組】（2年生）

外国の方に日本のことを紹介するために、PC等を活用しながら日本や外国に関わるものに興味をもてる活動を設定する。

【外国語活動の取り組み】（5年生）

外国の方におすすめのスポットを紹介するための表現方法を活用できるようにする。

ウ 中学校

1年次の英語科第2学年における授業では、対話的な学び促すために、関心の高い話題の選択やICTの活用など学習過程や教材の工夫などを行った。

2年次の英語科第1学年における授業では、ペアやグループで個人の考えを共有化させる対話的な学びを推進する工夫を行った。

(3) 基礎研究（論理的な研究）

ア 国際理解教育の充実には、幼児期から我が国や地域社会の様々な伝統や文化に触れさせて

いくことが大切である。また、小学校から異国の文化や外国語に親しませ学習への動機付けを高める必要がある。(参考：中央教育審議会答申)

イ 今後の方向性として、小学校高学年に外国語科を導入し、「聞くこと」「話すこと」に加えて、「読むこと」「話すこと」を加えている。

ウ 中学校においては、互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な活動を重視している。また、具体的な課題を設定するなどして、実際に活用する言語活動を重視している。

エ 以上のことを踏まえて、次の取組を行っていく必要がある。

- ・ 児童、生徒が主体的に学び、我が国や異国の伝統・文化を理解する意欲や態度を養うための学習過程を工夫する。
- ・ 英語による授業を充実させることや児童、生徒の主体的な学びを活性化させるために、小中の学習の中で系統性をもたせる学習過程を考える。
- ・ 2020東京大会を見据え、英語によるコミュニケーションを進んで行う力を育成するための教材開発及び学習過程の工夫を行う。
- ・ 英語や外国語活動だけでなく、他教科においても国際理解教育につながる学習過程の工夫や教材開発を行う。

(4) 授業研究（研究授業等の実践）

ア 1年次

(ア) 小学校

低学年（1年）単元名「I'm happy. ジェスチャーをつけてあいさつしよう」

初めて触れる外国語に興味をもって話そうとする姿がありました。

中学年（4年）単元名「I like apples. 好きなものを伝えよう」

ビンゴゲームをすることで、積極的に外国語を話そうとしていました。

高学年（5年）単元名「好きなスポーツをインタビューしよう」

リアクションの言葉を提示し、児童同士で外国語での会話ができるようにしました。

(イ) 中学校

第2学年の英語科の授業において、ICTの活用や対話的な学びを活性化する工夫をして、進んでコミュニケーションをとる資質や能力を育成する指導を行った。

イ 2年次

(ア) 研究協議

・ 小学校

4月には、前年度の研究内容の確認とともに、本年度の研究の重点を検討した。また、研究授業者の決定、研究授業の教科を「生活科」と「外国語活動」に決定した。6月には、次のような学習指導案の検討を行った。

第2学年「生活科」では、町たんけんの学習において、外国のものに興味をもてる学習を取り入れるに当たって、児童が学習に取り組みやすい学習過程を組むことが必要であることから具体的な指導内容と指導方法を協議した。

第5学年「外国語活動」では、ただ英語を話したり、聞いたりするというだけでなく、「外国の方に日本の観光スポットを教える」という単元のゴールが明確であることが重要であることを踏まえ具体的な指導内容と指導方法を協議した。

・ 中学校

4月には、前年度の研究内容の確認とともに、本年度の研究の重点を検討した。また、研究授業者の決定、研究授業の教科を「英語」に決定した。

9月には、主体的・対話的な活動を通して、英語のセリフを考え伝えることができるようにする視点から、具体的な指導内容と指導方法を協議した。

(イ) 小学校における研究授業

【2年 生活科】

- ① 対話を促すための環境設定は有効であったか。

最後の場面で、たくさんの児童が自分の考えを友達と共有できていた。

- ② ICTの活用は効果的であったか。

2年生で、パソコンの使い方がよく分かっていたことは驚きだった。4月当初からパソコンに計画的に触れさせることで、扱い方が定着することが分かった。



【5年 外国語活動】

- ① 対話を促すための環境設定は有効であったか。

学習のめあてが「おすすめのスポットを紹介する」と明確であり、児童が見通しをもって活動できた。したがって児童の学習意欲が持続できた。

- ② ICT活用は効果的であったか

教師のおすすめスポットのビデオレターが効果的だった。学習のゴールが理解しやすくなるとともに、児童にとって身近な教師が紹介することにより、より興味をもって聞くことができていた。



【指導講評】 指導主事 小野昌徳 様

- ・ 元担任等からのビデオレターを見せたことで、子どもたちが見せたいものを英語で話したいという意欲が高まった。とてもいいアイデアであった。
- ・ ワークシートの活用はよかったが、教師の業務の負担を減らすということからも、文科省のホームページに出ているワークシート集を利用するとよい。
- ・ 文字指導をしていたが、5年生にしてはレベルの高いものだった。しっかりできていたのでよかったが、他の学校で同じように行うことは求められない。
- ・ 低学年の対話は基本的には1対1が有効である。

(ウ) 中学校における研究授業

【導入】

クラスルームイングリッシュやビンゴを活用して英語に対する関心を高める。また、音読を通して、声を出す準備をする。

【展開】

ペアや4人グループによる対話的な学習を通して、英語によるコミュニケーションに

対する関心を深めるとともに、積極的に伝え合う態度を養う工夫を行った

【まとめ】

様々な意見を発表させ仲間との関わりを深める。また、ワークシートを活用し、自己評価するとともに、授業感想欄を設け関心の高まりや態度の向上をみる工夫をした。

【指導講評】 教科指導専門員 近藤 悦朗 様

- ・ビンゴの導入や活発な学び合いのグループ活動など活発な学習活動は、振り返りでもその成果がみられた。
- ・クラスルームイングリッシュの不足や生徒の会話による学習活動が少ない。
- ・板書の仕方など生徒がイメージしやすい工夫が必要である。

(5) 研究の成果と課題

ア 研究の成果

- ・ 児童や生徒が、中学校英語の学習へスムーズに取り組めるようにするために、低学年、中学年、高学年と発達段階や系統性を意識した指導の流れを作ることができた。
- ・ 学級担任が児童理解に基づいた興味・関心を持続させる指導法について、小中の教員が話し合いの中で共通理解を図ることができた。

イ 今後の課題

- ・ 児童、生徒によって外国語に対する意欲に差があり、全児童が積極的に発話をできる指導や教材の研究が必要である。
- ・ 英語による授業を充実することや児童・生徒の主体的な学びを活性化することが課題である。
- ・ 今回の研究では、外国語活動と英語科を中心に授業研究を行った。我が国や異国の文化・伝統に触れ国際感覚を磨いていくことが課題である。

平成29年度 第九中学校区小中連携教育実施報告書 「国際理解教育部会」

平成30年11月17日
足立区立亀田小学校
国際理解教育部長

全体テーマ：9年間を見通した、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫 ー 東京オリンピック・パラリンピックを見据えた活力ある子どもの育成 ー

1 本年度の目的と内容

- (1) 目的
ア 我が国や異国の伝統・文化を理解し、世界中の人と交流する態度を養う学習の在り方を追究する。
イ 2020 東京大会を見据え、英語によるコミュニケーションを進んで行う資質と能力を育成する学習を研究する。

(2) 研究の内容 (計画等)

- ア 生徒が主体的に学び、我が国や異国の伝統・文化を理解する意欲や態度を養うための学習過程を工夫する。
イ 2020 東京大会を見据え、英語によるコミュニケーションを進んで行うための教材を開発する。
ウ 有効な学習過程や教材等について調査する。

2 本年度の取組

- (1) 取組の内容
ア 外国語活動への関心を高め、発達段階に応じた指導の工夫
・ 低学年⇒外国語に興味、楽しく活動する。
・ 中学年⇒簡単な英語を聞いたり話したりして慣れ親しむ。
・ 高学年⇒簡単な英語を話したり、書いたりする。
イ 英語への関心と対話を促す学習過程の工夫と教材開発
・ ICTを活用し生徒の関心を高め、コミュニケーションを拡大する学習過程の工夫
・ 2020 東京大会のマスコットを取り上げるなど、国際交流を意識した教材開発と対話的な学びの推進

(2) 指導のポイント

- ア 中学校英語科につながる外国語活動
・ 低学年⇒英語の音声の特徴に慣れるよう、チャンツや歌などをよく聴かせる。
・ 中学年⇒コミュニケーションがより円滑に行えるよう相づちを打ったり、ジェスチャーをつけたりさせる。
・ 高学年⇒相手意識をもって、聞かれたことに対して正対して受け答えをするようにさせる。
イ 英語の文法的理解と英語による授業づくりを目指す学習過程の工夫と教材の開発
ウ 課題別の主体的な班編成による対話的な学びで、英語の思考力や表現力の向上を目指す指導の工夫

3 成果と課題

- (1) 成果
ア 低学年・中学年・高学年と発達段階や系統性を意識した指導の流れを作ることができた。
イ 学級担任が児童理解に基づいた興味関心を持続させる指導法を中学校の先生方とも共通理解することができた。
ウ ICTの活用で、生徒は学習内容をより身近に感じるとともに、英語によるコミュニケーションに関心を深めた。
エ 課題別グループの編成で対話的な学びや英語による表現力を高めることができた。
(2) 課題
ア 高学年では、外国語に対する意欲に差があり、全児童が積極的に発話できることが課題である。
イ 英語による授業を充実することや生徒の主体的な学びを活性化することが課題である。
ウ 教材開発やICT連携等の充実が課題である。

4 改善・充実の方向性

- (1) 新学習指導要領実施に向けた授業づくりの工夫
・ 中学校への接続を図ることを重視するため、高学年から「読むこと」「書くこと」を加えていく。
(2) 小学校・中学校の教師間の連携
・ 日頃の授業づくりにも生かせるように、小学校と中学校の教師間での意見交換を多くする。
(3) 英語による授業づくりの徹底
・ 生徒にとって英語のシャワーが十分浴びられる教育環境づくりなど、英語を日常化する指導の工夫
(4) 英語による思考力・判断力・表現力の育成
・ 班の学習活動が活性化し、英語による思考・判断・表現のできる対話的な学びを創造する指導の工夫
(5) ICT機器の充実
・ 学習活動の充実を図るためのICT機器の充実や教材の開発と教材・教具の有効活用

5 資料(図、写真、テープ等)

1 授業づくり (小学校)

- (1) 低学年 (1年)
単元名 「I'm happy」
ジェスチャーをつけてあいさつしよう
・ 初めて触れる外国語に興味をもつ、話そうとする意欲がありました。
(2) 中学年 (4年)
単元名 「I like apples」
好きなものを伝えよう
・ ビンゴゲームをすることで、積極的に外国語を話そうとしていました。



(3) 高学年 (5年)

- 単元名 「好きなスポーツをインタビューしよう」
・ リアクションの言葉を表示し、児童同士で外国語での会話ができるようにしました。



2 中学校第2学年の英語科の検証授業

- (1) ICTの活用
身近な英語、英語の日常化、文法的理解、思考力や表現力を高めるための資料など、ICTの活用の可能性を拡大する。



(2) 対話的学びを活性化する工夫

- ペアワークやグループワーク、課題別のグループ協議など様々な場面を設置し、コミュニケーション能力を育成する。

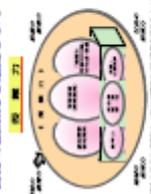
(3) 英語による授業の推進

- 生徒が授業中に英語のシャワーを十分浴びられる学習環境をつくる。

3 授業力の向上について

- 部教育委員会は、平成16年に授業中に教員が発揮する授業力を示した(右図)。
児童・生徒の発達段階を踏まえ有効な授業を行うためには、そのベースとなる児童・生徒理解や統率力などの資質が大切である。
また、学習活動を活性化し、主体的な態度を育成するためには、学習過程や教材開発などの指導の工夫が必要である。

自分の授業力を評価しよう



3 体力向上部会の研究について

(1) 研究のねらい

義務教育9年間を見通し、児童の発達の段階を踏まえて体力を向上させ、主体的・対話的で深い学びを通して、自らの生活を豊かにする活力ある生活を営む態度を養う。

ア 小学校（1年次）

特に、体力向上と関連が深い、運動、生活習慣の確立及び食育の授業の改善・充実を視点に実践的な研究を行う。

イ 小学校（2年次）

1年次の研究を踏まえ、運動、生活習慣の確立及び食育の視点から、児童が主体的に体力を高め、活力ある生活を送ることができるよう実践的研究を進める。

ウ 中学校

東京都教育委員会スーパーアクティブスクールであることを踏まえ、体力を全国レベルまで引き上げ、自ら生活を豊かにする活力ある生徒を育成する視点から研究を行う。

(2) 研究内容

体力を高め、自ら生活を豊かにする活力ある生徒の育成を目指し、体育学習、食育、生活習慣の確立などの視点から、学習内容、学習方法、教材開発等の実践的研究を行った。

ア 小学校（1年次）

食育では、バランスよく食べるためのキーワード「ま・ご・た・ち・わ・や・さ・し・い」で意欲や態度を育成した。

保健（生活習慣の確立）では、家庭との連携による一週間の体験的な学びを通して、実践力を育成した。

体育（器械運動）では、学習カードの工夫、場の設定、トリオ学習の導入などを通して、対話的な学びを充実させた。

イ 小学校（2年次）

食育では、実際に給食で食べた献立を扱うことにより、自分のこととして主体的に考えられるようにした。

保健では、あえて不規則な生活の例を示し、児童に改善策を考えさせることにより、多様な意見を引き出し、自分自身の生活を振り返ることができるようにした。

体育（低学年）では、学習カードを工夫することにより、児童一人一人が自分のめあてをもって活動できるようにした。

体育（高学年）では、中学校への連携を意識し、態度では積極的に運動しようとする姿や与えられた役割を行おうとする姿、フェアプレーを心掛ける姿を目指すなど単元の系統性を踏まえた指導を行った。

ウ 中学校

1年次の「陸上競技（長距離走）」では、目標設定、科学的なトレーニング、ペアによる学び合い等を行い、体力の必要性や高め方の理解と自己肯定感を高める指導を行った。

2年次の「器械運動（マット運動）」では、自己の目標に応じて、技の構造を理解し、安

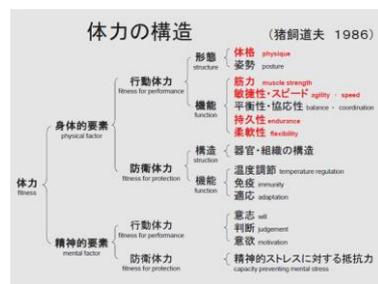
全に配慮し、共に学び合い、できる楽しさや喜びを味わう指導を行った。

(3) 基礎研究（論理的な研究）

ア 体力を高める指導

体力とは、身体的要素と精神的な要素があり、それらが高めるためには、早寝・早起き・朝ごはんや身の回りのことを自分でする、手伝いをするなど、自ら進んで行動する等の生活習慣等の確立が重要である。

また、体育学習の改善・充実等により主体的に運動に関わる力が必要である。



イ 食育に関する指導

食育では、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、生涯にわたって健全な食生活を実践することができるようにすることが大切である。

小学校期では、児童が基礎となる食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、中学校期では、献立を考えたり簡単な料理を作ったりするなど実践的な力をつける。

ウ 生活習慣に関する指導

小学校期では、1日の生活のリズムに合わせて、運動、食事、休養及び睡眠をとることが必要であることを理解できるようにする。中学校期では、心身の健康は生活習慣と深く関わっており、健康を保持増進するためには、年齢、生活環境等に応じた適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることを理解できるようにする。

エ 発達の段階を踏まえた指導

小学校期には、低学年における運動遊びから始まり、体験的な学びをとおして運動の機能的特性に触れ、運動に親しむ基礎を培う必要がある。小学校高学年から中学校期には、運動の機能的特性に加え、科学的な学びをとおした構造的な特性に触れ、運動について深く学び、運動に親しむ力を育成していく必要がある。

オ 主体的・対話的で深い学びを実現する指導

体育科・保健体育科では、見方・考え方を働かせて、課題を発見し、合理的な解決に向けて学ぶことが重要である。運動やスポーツの楽しさや喜び、体力の向上等について、自己の適性等に応じた「する・見る・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けることが大切である。また、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うことが大切である。教師が、これらを意図的に取り入れ、生徒に意欲をもたせ、資料等を活用して、仲間と共に解決させていく学習過程を工夫していく必要がある。

(4) 授業研究（研究授業等の実践）

ア 1年次

(ア) 小学校：総合的な体力向上のための授業づくり

- ・ 生活習慣の改善：授業後一週間を「睡眠パワーアップウィーク」とし、学んだことを実践できる授業づくり
- ・ 食育の推進：バランスよく食べる合言葉「ま・ご・た・ち・



わ・や・さ・し・い」の実践力を育成する授業づくり

- ・ **体育学習の工夫**：学習カードや技の構造図などの掲示を活用し、練習を工夫してできる楽しさを味わう授業づくり

(イ) 中学校：運動の特性に触れる陸上競技の授業づくり

- ・ **目標設定と学び合い**：自らの課題を踏まえ、科学的なトレーニングなど構造的な特性に触れて、仲間と共に学び合い、記録を向上させる授業づくり



イ 2年次

(ア) 研究協議

- ・ 小学校

4月には、前年度の研究内容の確認とともに、本年度の研究の重点を検討した。また、研究授業者の決定、研究授業の教科を「食育」、「保健（生活習慣）」、「体育（低学年）」及び「体育（高学年）」に決定した。6月には、学習指導案の検討を行い、自校での実践などをもとに活発な意見が多く出た。

- ・ 中学校

4月の研究協議を踏まえ、研究の重点を検討するとともに、研究授業者の決定、研究授業の教科を「体育学習（第1学年の器械運動）」に決定した。生徒の発達の段階を踏まえ、体力向上、機能的な特性に触れる学習、安全かつ主体的・対話的な学びなどの視点から、具体的な指導内容と指導方法を協議した。

(イ) 小学校における研究授業

○ 食育「元気列車を走らせよう」（第1年）

【導入】

児童個々の身体の健康に対する願いを發表させ、そのための「よい食事の仕方」について問うことで本時の学習への意識化を図った。

【展開】



「元気列車を走らせよう」の話聞き、列車が元気になるためのメニューを赤・黄・緑の食べ物のグループから選ぶ。グループごとに話を一度止め、ワークシートに記入した後、ペアで話し合いをさせた。2人組で話し合いをしたことにより、1年生でも自分の意見を伝え対話的に活動できるようにした。

【まとめ】

学習で分かったこと、考えたことをワークシートに記入して發表させた。その際、導入で考えたことと今の考え方に違いはあるかを問いかけ、今後の実践への意欲付けを図った。

【指導講評】 統括指導主事 石坂 泰 様

児童と教師のやり取りがよく、発見や気づきが多く見られた。児童はこれまでの経験からよく意見を言っていた。まとめをまず児童の言葉で書かせるとよりよくなる。感想



で考えさせることにより、思考・判断・表現力を高めることができる。

○ 保健「毎日の生活と健康」～健康マスターになろう～（第3学年）

【導入】

前時の健康についての学習を振り返り、本時のねらいを提示する。その後、「スマイルさん」の生活について話を聞かせた。

不規則な生活場面を把握しやすいように、イラストや吹き出しを用いて視覚的にわかりやすくした。



【展開】

「スマイルさん」を健康にするためのアドバイスをグループごとに考えさせる。対話的な活動となるよう、まず一人一人が考えた後にグループでの話し合いをさせた。その際、まとまった意見を付箋に書き込み画用紙に貼ることで、視覚的にもわかりやすくなり、話し合いが活発なものとなった。

グループごとに意見を出し合い、健康に過ごすためには、食事、運動、休養と睡眠が大切であることを確認する。食事、運動、休養・睡眠について4枚全部を合わせると円になるようなカードを使用し、1枚でも欠けると調和のとれた生活が難しくなることを視覚的に理解できるようにした。



【まとめ】

事前に一日の生活について記入したワークシートを見直し、自分自身へのアドバイスを記入し、発表させた。発表内容を認めたり、アドバイスを加えたりしながら、自己肯定感を高められるようにした。

【指導講評】 統括指導主事 石坂 泰 様

児童はこれまでの経験から何となく生活の良いこと悪いことは理解している。今日の学習では、それを思考・表現させることだった。そのため、自分の経験からアドバイスの理由を言うことができているグループがあった。食育と関連させて保健指導に生かすとよりよくなると感じた。

○ 体育「ボール投げゲーム」（第2学年）

【導入】

集合、整列、挨拶、健康観察をする。元気の良い挨拶で気持ちよく学習を始められるようした後、本時の学習内容を確認した。前時の児童の頑張りを紹介し、本時への意欲を持たせるようにした。準備運動では、単元の運動に合わせ、各部位の可動性が高まるよう声掛けをした。

【展開】

投げる動作、捕る動作のポイントを確認し、各ゲームを行う。ボール投げゲームに必要な感覚や技能をしっかりと抑えるために、繰り返し練習ができるよう、場の設定の工夫をした。(①おばけ退治をしようゲーム ②30秒パスゲーム ③的当てゲーム)





本時のねらいを確認し、ボール投げゲームを行う。攻守などそれぞれの状況に合わせて、児童の良い動きを手本にすることや動き方のマーキングにより視覚的に理解できるようにした。チーム編成では、力が均等になるようにし、友達に進んでアドバイスし合っている児童やチームを称賛して認め、良い関わりや言葉かけを全体に広めることにより、一人一人が意欲的に体力向上できることを目指した。

【まとめ】

協力して素早く安全に後片付けをさせた後、整理運動をした。本時のまとめでは、短時間で効率的に振り返りができるよう学習カードの工夫をした。

【指導講評】 足立区立東湊江小学校 校長 西澤 武先生

マナーをよく守ることができていた。投げ方の指導を丁寧に行っていてよい。フラフープの的当てが良いアイデアだった。振り返りでは、第2学年という低学年の段階にも関わらず他の子を意識して取り組んでいた。

○ 体育「サッカー」(第5学年)

【導入】

場の準備では役割を明確にし、一人一人が果たせるようにした。また、掲示物を活用し、本時のめあてと学習の流れが分かりやすいようにした。

【展開】

リーグ戦を行う。チーム編成は苦手意識のある女子児童でも積極的に取り組めるよう男女別の4人ずつとした。それにより、ゲーム中では一人一人がボールに触れる機会が増え、校庭の半面を使うコートでもボール操作をしやすくした。

チームごとに作戦を立てさせる時には、ホワイトボードを持たせ、視覚的に理解できるようにした。話し合いをする時間を適宜取り入れ、動きの確認や振り返りが行えるようにした。



【まとめ】



学習の振り返りでは、学習カードに友達の良かったところや自分のめあて、チームの作戦について具体的に書かせた。フェアプレーを行った児童を紹介し合うことにより、フェアプレーへの意識をもたせるようにした。

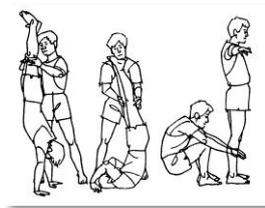
【指導講評】 足立区立東湊江小学校 西澤 武 校長

用具の工夫ができていた。チーム編成では、小学校の段階では男女混合で取り組むほうがよい。そのために、規則の工夫や学級づくりをする。作戦を立てさせてから、グループ練習にするとより作戦を意識できるようになる。教師の声掛けでは、具体的にアドバイスをする。運動好きな子を多くしたい。

(ウ) 中学校における研究授業

【導入】

挨拶や準備や片付けの節度ある行動とともに、全員揃って準備運動・補強運動を年間通して行い体幹を鍛えることとした。このことにより、体力が向上する楽しさや分かる・教え合う楽しさを味わわせるとともに、自己の体を支えるなど安全確保や協働意識の向上などにもつながると考えた。



【展開】

オリエンテーションを充実させ、運動の特性や学び方の理解を徹底し、自らの課題を明確にする。資料を活用することや思考し判断すること、仲間と共に解決していくことを通して、豊かなスポーツライフを実現する力の育成を目指していく。特に、発達の段階を踏まえて機能的特性に触れ、向上していく楽しさや喜びを味わわせることとした。



滑らかな技カード

【まとめ】

学習カード・ノートを活用し、自己の成長を可視化する。また、学習感想等をポートフォリオしていくことにより、主体的に学ぶ態度や、思考力・判断力・表現力等の育成を図っていく。さらに、生徒の深い学びの力の育成や自己肯定感を高めていった。

【指導講評】 学力定着推進課指導員 関 順子 様

生徒は、九中らしい挨拶や礼儀マナー、安全への配慮に好感がもてる。生徒に配布した学習ノートの構造図には、できばえの段階が記されており、仲間と共に確認していくなど有効に活用できる。今後の学びが深まることを期待する。

(5) 研究の成果と課題

ア 研究の成果

- (ア) 研究授業で扱う単元においては、小学校や中学校それぞれの実践を話し合い共有することにより児童・生徒の発達段階に応じた指導法を共通理解することができた。
- (イ) 体力を高め、自らの生活を豊かにする活力ある生徒を育成するための学習では、養護教諭等とのチームティーチング、身近なデータや画像等の資料、学習カード・ノートの活用などによる、主体的・対話的で深い学びの学習過程が有効である。
- (ウ) 児童・生徒は、体験的に学ぶこと、運動や体力及び健康に関する知識を深めること、それらに関連付け学ぶこと、仲間と共に学び合うことにより自己の課題を解決していき、それが自信となり、新たな課題に挑戦する活力や意欲につながっている。

イ 今後の課題

- (ア) 研究授業を協力して行うことができた。校種等の垣根を超え普段から授業を見合ったり指導者を交換しての授業をしたりすることやチームティーチングなどの体制づくりができるようになるとさらによい。その方法を検討していく。
- (イ) 児童・生徒の発達の段階や学習内容を踏まえ、それぞれの単元等において有効な学習過程や教材の開発が課題である。

平成29年度 第九中学校区小中連携教育実施報告書 「体力向上部会」

平成30年1月17日
足立区立梅島第二小学校
体力向上部長 井ノ口真保

全体テーマ：9年間を見通した、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫 — 東京オリンピック・パラリンピックを見据えた活力ある子どもの育成 —

1 本年度の目的と内容

- (1) 目的
- ア 義務教育9年間を見直し、児童・生徒の発達段階を踏まえて体力を向上させる。
 - イ 主体的・対話的で深い学びを通して、自らの活力ある生活を営む態度を養う。

2 本年度の取組

- (1) 取組の内容
- ア 自身の実態を把握させ、よりよい生活・運動習慣を身に付けさせるための指導
 - ・ バランスよく食事しようとする意欲や態度を育てる
 - ・ 主体的に対話的に学ぶ児童の育成
 - イ 運動の特性や魅力を体験し、自らを高める指導
 - ・ 構造的な特性に焦点化した指導
 - ・ 科学的に対話的な学びによる学習の深まり
 - オ 努力により、目標達成の成就感や自己肯定感を味わわせる指導

3 成果と課題

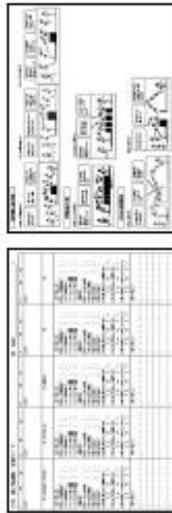
- (1) 成果
- ア 生活や行動を見つめなおそうとする意欲の向上（小学校）
 - ・ 給食メニューだけでなく食材にも注目ようになった。
 - ・ 陸頭の高めることの意義を知ること、生活を見直す必要感が生まれた。
 - ・ 映写箱が苦手な児童でも主体的に取り組んでいた。
 - イ 自己肯定感の高まり（中学校）
 - 生徒は、仲間とともに楽しい練習を乗り越え、目標を達成することにより自己肯定感を高めることができた。運動や体力の重要性等を知り、学習や能力開発に積極的になった。
- (2) 課題
- ア 小中9年間でどのような系統性をもって指導にあたるかをさらに明確にする必要がある。
 - イ 基礎体力を身に付けさせるとともに、自ら計画するなど主体的に学ぶ態度を育成し、高等学校や社会人となる実質や能力を育成していくための授業の改善・充実を図る。

4 改善・充実の方向性

- (1) 学習指導案作成にあたっての工夫
- ・ 「テーマに迫るための手立て」の項目について、児童・生徒の学びの姿に視点をあつめたものにする。
 - ・ 「指導内容の関連」を記入する。
 - ・ 話し合わせる際の視点を児童たちに理解させる。
- (2) 運動の特性や魅力を味わう指導の工夫
- ・ 発達段階を踏まえ、体力に関する理解を深めること、生活習慣や運動習慣を身に活力ある生活を送るための体育実践、体育理論及び保健学習の関連を図った授業づくりを行っていく。
- (3) オリンピック・パラリンピック教育との関連
- 2020 東京大会を踏まえ、オリンピック・パラリンピック教育を生かした体力向上の取組を一番推進していく。

5 資料(図、写真、テキスト等)

- 1 総合的な体力向上のための授業づくり（小学校）
- (1) 生活習慣の改善
授業後1週間を「睡眠パターンアップウィーク」とし、よりよい睡眠をとるために行うとよいと学んだことを実践させた。
- (2) 食育の推進
バランスよく食べるための合言葉・・・
「ま・ご・た・ち・わ・や・さ・し・い」
- (3) 体育学習の工夫



2 運動の特性にふれた指導の工夫（中学校）

主体的な学び 自ら学ぶ姿勢	深い学び 深い理解	対話的な学び 対話による学び
自ら学ぶ姿勢	深い理解	対話による学び
自ら学ぶ姿勢	深い理解	対話による学び

3 運動の楽しさの分析

運動の楽しさは、小学校時期は主に機能的な特性に関する内容であるが、中学校では機能的特性に関する内容が大きくなる。また、体力向上や健康などの効果的・効果的も含まれていく。
このことを踏まえ、児童・生徒の発達段階から学習過程や教材を工夫する必要がある。



編集後記(副校長、研究推進委員長)

【第九中学校】

推進委員長 「9年間を見通した、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫」を研究主題として2年がかりで取り組んできた小中連携事業。様々な課題をクリアしながら、4校の校長先生方をはじめ関係小中学校の先生方の協力の下、ご講演をいただいた多くの講師の先生方のご指導もあって、有意義な時間を過ごすことができました。あとはこれらの成果をどのように実践で生かしていくかが課題です。実践あってこそその研究ですので、今後の先生方のご努力に期待しております。次年度以降も同様な小中連携事業が展開されていきます。児童・生徒のためにたゆまぬ研鑽を積んで参りましょう。本当にお疲れさまでした。

大久保 卓

副校長 私の勉強不足で、私自身よくわからないままスタートしてしまった小中連携事業でした。いろいろな面で関係の皆様にご迷惑をおかけしましたことを、まずもってお詫び申し上げます。「9年間を見通した、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の工夫」をテーマに、まさに今、学校教育に求められていることを、第九中学校区の4校が一丸となって研究してまいりました。この研究をとおしてますます小中連携教育が充実するとともに、2年間の研究は児童・生徒のために必ずプラスになることと信じております。これまでご指導いただきました関係の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。今後とも、よろしく願いいたします。

大井 勝

【梅島小学校】

推進委員長 新学習指導要領の重点項目の一つである「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、第九中学校区においても、小中が連携を行い、実践を重ねてきたことは、大変意義深いことだと考えます。様々な取り組みを行う中で、多くの課題が明らかになりました。中学校への円滑な接続のために、児童に身に付けさせておくべき学力や学習技能等が明確になりました。また、小中を通じ各教科で一貫して取り組むべき学習方法の研究や教材の開発なども、成果として得ることができました。しかし、小中の各校の教員が十分に時間をとって研究に取り組むことの難しさも改めて感じました。今後、働き方改革が進められる中、その面からも連携の充実を図る工夫が必要になると考えます。今回、本研究に携わることができたことを感謝いたします。

中條 善孝

副校長 第九中学校との連携は、昨年からは梅島第二小学校、亀田小学校の2校が加わり小中の連携・研究は、今まで以上に深まりました。各分科会での協議も2年目の研究ということもあり、今年度は教員一人一人が課題意識をもって臨めたと考えます。また、中学生は、小学校での夏季補習教室への学習ボランティア、小学校体育館での部活動、職場体験、小学生は、町たんけんの一環としての中学校見学、部活動体験など、様々な交流を通してより良い関係を築くことができました。今後は、同じ地域にある小学校、中学校がこの小中連携事業を通して、自分たちの生活する地域の発展に向けて大いに力を注げることができればいいと考えます。

鯉沼 哲

【梅島第二小学校】

推進委員長 昨年度は、算数・数学科での研究授業でありましたが、今年度は国語科、算数科、理科と広げ、各教科で育てたい児童・生徒の姿を学力や経験の実態をもとに話し合い、それぞれの発達段階においてすべきことをはっきりとさせたことが大変有意義でした。指導案検討や研究授業のあとの協議会では、小中それぞれの立場から活発に話し合うことができたことは、児童・生徒が学ぶ力をつけるという目的のもと、教員が当事者意識をもって臨んでいる表れだと感じました。中学校の先生方からいただく貴重な意見をもとに、3校の小学校の教員で協力し合いながら、今後も小中の学びの接続が円滑にいくように、情報交換、連携、交流を図っていきたいと感じました。 藤谷 緑

副校長 小学校、中学校が連携して、9年間を見通した指導法について話し合い、授業に向けて研究し、小学校、中学校それぞれの発達の段階で、授業を実施できたことに大きな意義がありました。その中で、小学校で身に付けておくべき力と、それを受けて中学校で育てていくべき力を少しずつだが、具体的に確認していくことに大きな成果がありました。また、3つの部会「学び方」「国際理解」「体力向上」のテーマに沿って研究してきたことで、小中や教科を超えて横断的に話し合い、意見を交換することができたことも大きな成果と言えます。今後も、この小中の連携を生かして、児童、生徒の育成にあたっていきたいと考えます。 榎本 勇夫

【亀田小学校】

推進委員長 3校の小学校間では実践を伝えあったり、似たような課題を共に解決したりすることができ、また、中学校での授業では、9年間を見通した指導をすることの大切さを改めて感じました。学区を超えて同じ地域の子どもたちを共に育てていると感じることのできる研究となりました。 江藤 歩美

副校長 各回の研究授業・協議会の終わりに、副校長として謝辞を述べさせていただきました。授業を行うにあたっての指導案の検討、練り上げ、事前の準備、そして当日の授業、協議会。講師の先生からのご指導をいただき、成果と課題を次の研究実践へとつないでいく…。協議会に参加しながら、子どもたちの顔・姿が想起され、学んだこと、考えたことをすぐに翌日から試してみたいくなる、取り入れてみたいくなる、わくわくした気持ちで次のステップに進んでいく…。その積み重ねや機会は私たち教師にとって、とても大切なものです。謝辞の折に、「やっぱり、研究って楽しいですね！」という正直な個人の感想（笑）をいつも添えさせていただいていますが、実践2年目となった今年度、領いてくださる方が増えたことを嬉しく感じています。

「教師は授業で勝負する」「授業で子どもを育てる」という「当たり前」のことを、自校のみならず、校種を超えた4校で共有できるという貴重な学びのチャンスをいただいた2年間に感謝しながら、さらにこの地域の子どもたちのために、私たちに「できる」こと、私たちが「なすべき」ことを共に考え続けていきたいです。 鈴木 孝子